

京の大人の英知、注入マガジン

京都CF

[シー・エフ]

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の頁数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。



No.252

2004. 12th

特集
室町は
飲食店街になるのか?②

定価350円
(送料100円/1冊の場合)



No.251

2004. 11th

特集
室町は
飲食店街になるのか?①

定価350円
(送料100円/1冊の場合)



No.250

別冊京都CF!

京都ブランド vol.6

まどろみの
京都喫茶ロマン

定価800円
(送料100円/1冊の場合)



No.249

2004. 10th

特集
動き出す木更町、
その原動力たち。

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

年間定額購読

1年間分の「京都CF!」を銀行引き落としにて、4,200円(内、消費税200円)で予約購読していただけます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局

〒604-8134 京都市中京区西陣通西入ル大丸ビル2F

TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557

ホームページからもお申し込みできます。

<http://www.m21.or.jp/fame>

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。

結婚しなくても、ええんちゃう?

⑥ 相手選びの範囲を狭める「京都在住」

E子さんは同僚の女性に、「何でかわからへん…」と最近よくボヤクようになった。29歳になったばかりのE子さんは、保育をしている。独身男性に出会うチャンスがほとんどなく、母親は親戚や知人に頼み、お見合い話を持ってくる。2年前から結婚願望に目覚めたE子さんは素直にその話に乗るようになった。が、結婚までには至らない。

「私が気に入った人には断られ、タイプでない人には『つき合いたい』と言われるねん。世の中、上手いことかへんわ。なんで結婚でへんのか分からんようになってきた」「E子さん可愛いのはなあ、何で断られるのか、私も分からへんわ」という同僚にE子さんは、「先月お見合いした人は、私の好きなタイプで、その人も気に入ってくれたんやわ。そやけど、転勤が多いらしい。私は京都から出るの絶対イヤ。ええ人やったけど、2回会うだけで、断ってしまった」。

一京都に住める男性しかイヤ、なんて言うてたら、相手選びの範囲を狭めるえー

E子さんの母親も、「寂しいからなるべく近くに住んでほしい」と言っているらしい。

人生は自分で切り拓いていくもええ。E子さん、新しい土地で暮らして、人生の幅を広げることには胸をときめかすくらい女にならんと。好きなタイプの人とは何度かデートしてみたら? 京都以外に住む人はイヤ、なんて言うてうちは、結婚しなくてもええんちゃう。

PROFILE

フジタタカコ

全日本ブライダル協会、ブライダルコンサルタント講師会員第一号資格取得後、結婚雑誌の編集長を経て、現在フリーのマリッジコーディネーター。「結婚水先案内人」として、様々なニーズに合った出会いをマネジメントしている。その他、パーティープロデュース、講演、執筆活動など、活躍の場は多岐に渡る。

問い合わせ先 ☎075-882-5635

<http://www.011.upp.so-net.ne.jp/mml/>



第十八幕 「おことうさん」編

嶋原司の らたいた 花語

太夫とは?

「正五位」の別荘で、歌舞曲の他、茶・華・香・歌など公家や武家の奥方同様の知識を持った巫女に与えられた妓女の最高官位のこと。現在は5花街のうち京都・嵯峨のみに4人残存し、前太夫はその内の1人。中学卒業後福屋甲斐で舞妓となり、8年勤務その後太夫への道に進む。芸事の他、日本画・写真・手話を勉強し、フリーペーパー「こたたい新聞」の発行やイベント企画など活動の場は広い。

おことうさん
暮れの挨拶
華やかに



Tsukasa



「切通し 新道堂」祇園四条通り通し上ル。舞妓や芸妓ご用達の喫茶店。11月末頃から店の軒先に柱が揺れる。この柱は一般的に「福玉」と呼ばれ、同店では50年程前からお馴染みの風景だ。店主の藤谷さんは「職人がおらんくなって、10年前から福玉作りの職方を継いだ」

「おことうさんです」「おことうさん、来年もよろしゅうおたの申します。——おことうさん、町中でもう聞かれしまへんねえ。これは年末大晦日の挨拶の言葉で「御事多い」て書くんですけど、大晦日は忙しい事が多おすね。「本年はお世話になりました。来年も宜しくお願いします。忙しいですが、気をつけて良いお年を。」そういう意味どすのんや。師走に入ると祇園の和装小部屋さんとか、有名なところでは祇園の「切通し 進々堂」さんの店先に、直径20~25cmの白とピンクの柱がぶら下がっています。お正月に柳を着ける餅花の大きいのに紐が着いている感じどす。お客様が扇の紋に用意してお茶屋さんへ預けとかはんので、挨拶に回ってると見るとどれだけご扇がいはるか柱の数でわかるわけどす。晴れがましおすね。年が明け2日に柱を割ると、中には財布や帯締め等の小物やお菓子が入っています。お年玉みたいなもんどすね。最近は味気無くて「御祝儀」に変わってたりして柱が少のおしたり、地方の柱が多いのであんまり回ったはんのも見しまへんけど、31日夜800頃に挨拶に回っている舞妓が、運が良ければ(笑)見られます。

司事務所

075-594-0568

<http://kyoto.cool.ne.jp/tukasa21>